

科目名	国際経済学Ⅰ	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学科	□必修 ■選択	
			学科	□必修 □選択	
英文表記	International EconomicsⅠ	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年		
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中		
ふりがな	さかもと こういち	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	坂元 浩一	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	国際経済学の理論を学ぶ				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 日本の国際経済取引の全体と主な活動（貿易と投資）を十分に理解できるようになります。 2. 世界経済や主要国の経済の動向を知ることができます。 3. 経済関係の新聞や雑誌を読めるようになります。				
授業概要	国際経済学は、ミクロ経済学とマクロ経済学を学んだ後に受ける、経済学の基幹科目です。経済学それぞれの分野について、理論、歴史、政策が3本柱ですが、この国際経済学の講義では、理論が中心となります。 国際経済取引の枠組みとして国際収支を学び、その構成要素である外国貿易と為替レートの理論を学びます。理論の応用として、またその理解を深めるために、政策も適宜説明します。 事例として、世界の多くの国を取り上げますが、最も扱うのは日本経済です。教員の実際の海外での経験を交えながら、理解を深めてもらいます。海外直接投資については、国際経済学Ⅱで扱います。				
授業計画					
第1回	イントロダクション（国際経済の内容、アプローチ）				
第2回	世界経済、地域経済、日本経済の現状				
第3回	国際収支Ⅰ（基礎事項とトレンド）				
第4回	国際収支Ⅱ（捉え方、枠組み）				
第5回	国際収支Ⅲ（政策）				
第6回	為替レートⅠ（基礎事項とトレンド）				
第7回	為替レートⅡ（理論）				
第8回	為替レートⅢ（制度と政策）				
第9回	外国貿易Ⅰ（基礎事項とトレンド）				
第10回	外国貿易Ⅱ（基礎理論）				
第11回	外国貿易Ⅲ（制度と政策）				
第12回	世界経済論				
第13回	国際化における日本経済				
第14回	日米経済関係				
第15回	国際化における主要国経済				
第16回	定期試験				

授業時間外の学習	1. 授業で説明する情報や課題に十分に取り組んでください。(1時間程度) 2. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。(0.5時間程度)
履修条件 受講のルール	ミクロ経済学とマクロ経済学を履修していることが望ましいです。理論中心の授業ですので、図や表、そして統計を論理的に理解するつもりで受けてください。
テキスト	なし
参考文献・資料	坂元浩一『教養系の国際経済論―総理解から次の一步まで―』(電子書籍) 大学教育出版、2012年。 坂元浩一『世界金融危機―歴史とフィールドからの検証―』 大学教育出版、2010年。 坂元浩一『国際協力マニュアル―発展途上国への実践的接近法―』 頸草書房、1996年。 Sakamoto Koichi (坂元), <i>Japan and China: A Contest in Aid to Sub-Saharan Africa</i> , World Scientific, 2018. (日本と中国: サハラ以南アフリカへの援助の競争) 中野真志、島村高嘉『読本シリーズ 金融読本』第32版、有斐閣、2023年。 酒井良清、鹿野高嘉和『金融システム』第4版、有斐閣アルマ、2021年。
成績評価の方法	【レポート・小テスト(40%)、定期試験(60%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。授業の理解および予習・復習が充分であることを確認するために授業中に行うミニ・テストも評価に含めます。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日、木曜日 14時～15時
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び 実務を活かした 授業内容	
学生への メッセージ	これだけ国際化が進んだ日本および世界を、正しく理解できるようになってください。国際経済取引の理解は、企業での仕事では当然必要であり、また日々の生活でも役に立ちます。 教員の数多くの海外経験を聞くことにより、皆さんが国際経済をより身近に捉えられるようになると考えます。